県建設業協会鹿児島支部 安全パト

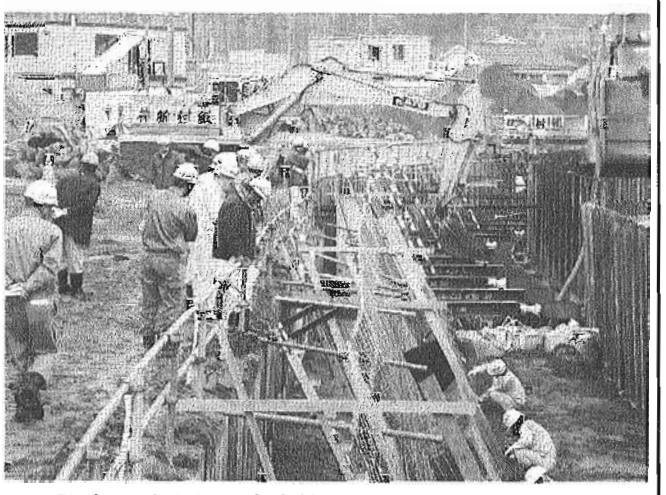
施工現場を厳しくチェック

県建設業協会鹿児島支部は10日、鹿児島市内の9現場で安全管理・雇用改善パトロールを実施、3大災害の防止等、工期末に向けて更なる安全施工サイクルの徹底を指示した。

パトロール出発に先立ち、川畑俊彦支部長が「これから3月にかけては例年、工期がひっ迫、工事がふくそうし、作業間の連絡調整不足等で災害が多発している。年度末を無災害で乗り切るため、本日は厳しくチェックして頂きたい」と挨拶した。

同日の重点指導事項は、重機と作業員との接触、転落災害防止、誘導者の誘導の仕方、安全な昇降設備など。パト班は3班で編成し、うち第1班は川畑支部長、吉丸義博労務委員長、水溜栄作鹿児島労働基準監督署安全衛生課長らが診断員となり、会員事業所施工の3現場を巡回した。

脇田川護岸築造（50工区）の現場では雑割石積みを施工中。診断員は、現場事務所内の帳簿類の備えつけと記入状況等を調べた後、石積み作業における昇降設備の適正な設置と、鉄筋の危険防止策が施されているかを入念に点検していた。



護岸石積み作業を点検する診断員
＝鹿児島市の現場で

水理計算等について学んだ講習会
＝鹿児島市の県社会福祉センターで

総務省 市町村合併説明会

首長ら合併への対応学ぶ

総務省は10日、鹿児島市のホテルウエルビューかごしまで「市町村合併説明会」を開き、県内市町村長、担当課長、議会議長、法定及び任意合併協議会長ら約400人が出席、政府の取り組みや全国の動き、小規模市町村のあり方のほか、地方交付税制度の検討状況等に関する説明など、今後の合併への対応等を聞いた。

冒頭、高山大作県地方課長が「現在、5法定協議会で協議中の市町村において3月議会で法定合併設置議案などを予定している市町村もあるなど、合併に向けた取り組みが県内各地で進展してきている。市町村合併は市町村を取り巻く社会経済情勢との変化等に的確に対応し、住民の期待に応えていくとともに、地方分権の時代にふさわしい行政体制をつくることや、行財政基盤の強化を図る上で避けて通れない課題であると認識している。説明会を参考にしていただきながら地域の将来像などに関する調査、研究などによる実施など、合併実現に向けたさまざまな支援を行ってきている。合併後の市町村の公益的、一体的なまちづくりの取り組みに対しても合併特例交付金の交付をはじめ、鹿児島県市町村合併支援プランに基づき、財政支援や事業支援など、合併の各段階に応じた支援を基本的に行っていきたいと考えている」と述べた後、説明に移った。

説明会では、山崎重孝総務省自治行政局行政体制整備室長が地方分権、少子高齢化、行政改革の3つの視点から合併について解説。この中で、地方分権推進の動きや小規模市町村が22から34に増えたことなどを述べた。また、本県でも2030年には5000人未満の市町村が22から34に増えたことなどを述べた。

説明会では、山崎室長は、議論の検討の段階で多くの市町村などから反論する声などもあり、それらを踏まえ、春に地方制度調査会の中間まとめを出し、秋頃に最終答申すると解答した。

地方分権など三つの視点で講演した説明会
＝鹿児島市のホテルウエルビューかごしまで

直結増圧式給水講習会

設計施行基準等を解説

テラルキョウトウ

㈱テラルキョクトウ鹿児島営業所は10日、鹿児島市の県社会福祉センターで直結増圧式給水に関する講習会を開き、設備業者など約60人が出席して、直結増圧式給水設計施行基準や水理計算等について学んだ。

同講習会は、鹿児島市水道局が15年4月から直結増圧式給水方式を採用することから、直結加圧形ポンプユニットにおいて東京都で約40％のシェアを誇り、各都市で多数の導入実績がある同社が、同方式に関わる講習会等を実施しており、先月10日に続いて今回が2回目の開催となった。

講習会を前に、高野正喜同福岡支店長が「増圧直結式ポンプは、省エネ運転でコスト削減を図れ、安全で清潔な水を供給できる等のメリットがある究極のポンプではないかと思います。本日の説明会が、導入にあたり参考になれば幸いです」と挨拶。

講習会では、講師の同東京支社システム技術担当の仲真吾氏が、直結増圧式給水設計施行基準や水理計算、同社製品の「ミニキャビMC2－DFC」等についてくわしく解説、出席者はメモを取るなどして熱心に聴き入っていた。

KER 新入社員セミナー

来月20日から7会場で

－くらしと経営の相談所－㈱鹿児島地域経済研究所（KER）は3月20日の鹿児島会場（かぎん研修会館With）を皮切りに7会場（15回）で新入社員セミナーを開く。時間は全て午前9時30分から。

同セミナーは、グループ討議やビジネスマナーの実技を中心とした実践・参加型セミナーで、仕事の心構えやビジネスマナーの基礎について実践的にかつ、解りやすく、楽しく解説する。受講料は、KER会員5250円、一般7350円。

問い合わせは、同社（☎099・223・5299　FAX227・3025　Eメールアドレス keisou@satsuma.ne.jp）まで。

日程は次の通り（①開催日②会場）。

【3月】

▽鹿児島会場＝①3月20・27・28日②かぎん研修会館With（鹿児島市与次郎2－229－7－2）

【4月】

▽鹿児島会場＝①4月2・3・4・7・8・18日②鹿児島中央ビルディング（鹿児島市山之口1－10－3F）

▽加世田会場＝①4月3日②加世田商工会議所（加世田市本町23－7）

▽国分会場＝①4月10日②国分市シビックセンター（国分市中央3－45－1）

▽川内会場＝①4月10・11日②川内国際交流センター（川内市天辰町2211－1）

▽加治木会場＝①4月17日②加音ホール（加治木町木田5348－185）

▽都城会場＝①4月15日②都城商工会議所（都城市姫城4－1）

県畳工組が針供養祭

古き良き慣わし後世に

県畳工業組合（増田勇理事長）は8日、姶良郡隼人町の鹿児島神宮で針供養祭を開き、県内各地から組合員ら約70人が参加して、世話になった針をこんにゃくに刺して労をねぎらった。また当日は手縫い畳の実技披露も行われた。

針供養祭では、組合員全員が折れたり針先が潰れてしまった針を、祭壇に供えられた特大のこんにゃくに次々に刺して労をねぎらったほか、増田理事長や神園幸夫、豊倉知利両副理事長、各支部長らが玉串を捧げて今年1年の安全を祈願した。

また、供養祭に先立って境内で行われた実技披露では、同工業組合姶良支部（西薗哲史支部長）の会員が中心となって、長年鍛えた匠の技を披露。西薗支部長は「近年の機械化で手縫い畳の需要が少なくなっているが、若い人たちが奉仕活動等に積極的に参加するようになってきた。古き良き慣わしを後世に残していくために、今後も技術を磨き、消費者に対し思いやりのある対応をしていきたい」と話していた。

針への労をねぎらった針供養祭
＝隼人町の鹿児島神宮で